

令和 4年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

| | | | | | | |
|-------------|--|--------------------------------------|------|------|----|--------------|
| 会議 | 部会名 | 第 3 回 療育等連絡会 | 参加者数 | 60 人 | 会場 | ZOOMによるWEB会議 |
| | 日時 | 令和 5 年 2 月 13 日 (月) 16:00 ～ 18:00 | | | | |
| 主 テ マ | 1 今年度の取組について 2 LDのあるお子さんに対する支援「早めの気づき適切な学び」第2版の説明 3 LDに関する上伊那圏域特別支援教育連携協議会への提案結果について 4 成長ダイアリーの支援者向けアンケートの結果説明 5 市町村の支援体制に関する学びあい 情報共有ファイルの扱いについて | | | | | |
| | 1 今年度の取組について 事務局より今年度の取組について説明。年3～4回程度開催予定。 2 LDのあるお子さんに対する支援「早めの気づき適切な学び」第2版の説明 長野県次世代サポート課 西村氏より説明 昨年度作成したものに続き、第2版は高校入試に関する合理的配慮の申請に関してのリーフレット。 県のHPから第1版・第2版ともにPDFでダウンロード可能。 3 LDに関する上伊那圏域特別支援教育連携協議会(以下かみとくれん)への提案結果について 療育等連絡会会長塩入先生(かみとくれん事務局)より 療育等連絡会からの提案を受け、かみとくれんでは今年度小学校・中学校・高等学校の教職員に向けて合理的配慮に関するアンケートを実施する予定。その結果を踏まえて医療とすり合わせの機会を持っていきたいと考えている。 4 成長ダイアリーの支援者向けアンケートの結果説明 成長ダイアリーの活用に関しては市町村・年代等で大きく差がある。保育園から小学校のつなぎなどの縦の連携においては活用効果について一定程度の評価をいただいている。横の連携では細かなやり取りに向かなかったり、各機関の取扱いに差異が生じている。保護者主体で作成・管理をするものではあるが、保護者だけでは作成管理が難しい部分があると感じている支援者も少なくない。保育園・学校で作成の個別支援計画を同じファイルにとじ込むことで記入の負担を減らす等の活用がより広がっていくことを期待したい。 5 市町村の支援体制に関する学びあい 情報共有ファイルの扱いについて 伊那市成長ダイアリーに関する取組の発表(子ども相談室家庭相談員 伊那市健康推進課保健師 伊那北保育園保育士 伊那東小学校特別支援教育コーディネーター 伊那中央病院リハビリテーション課OT 保護者(事務局代)) ・普及啓発に関して、毎年定期的に園長会や特別支援教育コーディネーター連絡会で説明の機会を持っている。 ・就学に関わる教育支援委員会の必要な様式に成長ダイアリーの一部を採用し、保育園・幼稚園から小学校へのつなぎにおいても成長ダイアリーの所持について伝わるようにシステム面での工夫を行っている。 ・地区担当保健師は作成依頼があった際には母子保健の記録をさかのぼって記入する手伝いをしている。 ・保育園においては情報共有や振り返り、医療機関のリハビリとの連携などに活用を行い、関係者の方向性のすり合わせに活用している。 ・小学校でも入学時に支援経過・成育歴の確認に活用している。個別の支援計画を作成しているため、記入の代わりにそちらをファイルに綴じこんで代替している場合もある。 ・保護者での管理が難しい方については家庭との相談の上で学校で管理を行っているケースもある。 ・伊那中央病院ではリハビリを受ける子どもに関しては基本的に作成を促している。もともと連絡帳を用いていた経過もあるため、現在もなんでも書いてよい情報共有ツールとして活用している。 ・保護者からの発表では成人まで情報を積み上げて障害年金の申請を行った方の事例について紹介。各年代の支援者が情報の積み上げに協力したことや、母が情報集約について工夫をしていた点、年金申請の際にとっても役立ったことについて話がされた。 | | | | | |
| ま と め | ・成長ダイアリーのアンケートにより一定の活用効果を確認することができた。 ・情報共有ファイルに関して伊那市が既存のシステムを活用してやってきた成果について共有することができた。 | | | | | |
| 次 回 | 10月20日(木)に重心・要医療的ケア部会と合同部会を実施する予定。 | | | | | |